

英語科学習指導案

- 1 日 時 平成28年5月16日(月) 3校時(10:35-11:25)
- 2 学 年 中学校第3学年
- 3 場 所
- 4 単 元 名 日本文化紹介
(New Horizon English Course 3 (東京書籍))

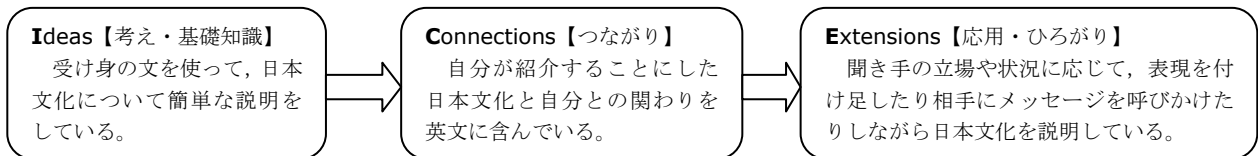
5 単元の目標

◎Unit 1 までに学んだ表現(受け身の文)を使って、日本文化について説明する英文を書いて、口頭で発表することができる。[外国語表現の能力]

6 本単元で育成しようとする資質・能力

コンピテンシー(資質・能力)	本単元との関わり	
知識	知識	受け身の文の表現を正しく使うことができる。
スキル	論理的・建設的批判能力 コミュニケーション能力	聞き手の立場や状況に応じて、必要な情報を選択し、適切な文章構成で書くことができる。 必要に応じて表現を付け足したり聞き手に呼びかけたりしながらコミュニケーションを図る。
意欲・態度	積極性	間違ってもあきらめずに最後まで取り組む。 仲間と協力してよりよい発表になるように工夫し続ける。
価値観・倫理観	異文化理解 アイデンティティ	日本文化について調べて発表する活動を通して、異文化理解やアイデンティティを認識する。

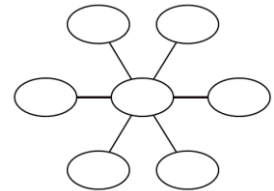
7 単元の ICE モデルイメージ



8 本単元で使用するシンキングツール

【イメージマップ】

イメージマップは、文章に組み入れる事柄や、調べる事項についての発想を広げます。作文をするときに、何について書くかについてイメージマップをもちいて広げておくことで、書く内容が豊かになります。(中略)



最も重要なことは、書き出すときに、制限をかけないように気をつけることです。ブレインストーミングとは、脳に嵐を起こすという意味で、それまで思いつかなかった斬新なアイデアをうみだすための方法です、したがって、自分の頭を支配していた思い込みや常識をとっばらって、自由にアイデアを広げることが大切です。どのようなことでも思いつくことはとりあえず書いてみます。必要があるかないかは、アイデアを出し切ってから検討します。(黒上晴夫他「シンキングツール®~考えることを教えたい~(短縮版)より引用)

本単元では、「日本文化を英語で書くためには、日本文化に関する情報とそれを表現するための英語が必要である。」ということを生徒と確認し、まずは日本文化についてのイメージを広げさせるためにイメージマップを使用する。クラス一人一人のイメージマップを1つにつなげてさらにイメージを広げ、その中から自分が紹介したい日本文化を決めさせる。そして、その日本文化についてのイメージをさらに

広げさせたり、必要に応じてインターネットを使って情報収集させたりする。

9 単元について

(1) 単元観

中学校学習指導要領解説外国語編（以下、解説）の中の言語活動「話すこと」(オ)に「与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。」がある。解説は、与えられたテーマについて、自分の意見や主張を聞き手に対して分かりやすく話すという活動を示している。この活動においては、学校や日常生活などで体験したことや自分の夢など、生徒の学習段階や興味・関心に合わせて、適切なテーマを与えることが大切である。また、絵や実物を示して聞き手の理解を容易にするなどの工夫をさせることも考えられる、としている。

なお本単元は、2つのパートに分かれており、前半では日本文化紹介文を書いて発表する。後半はUnit 0の国紹介やUnit 1の文化の多様性を包括的に扱い、ハワイの風習や文化についての読み物教材へとつながっているが、本指導案には前半のみを記述することとする。言語材料はおもに受け身の文が扱われており、「使われている」「～でできている」「親しまれている」「知られている」等の表現を使わせることができる単元である。

(2) 生徒観

英語で表現することが大好きだという生徒が数名いる一方で、苦手意識が強い生徒も数名いる状況である。個別支援が必要でペア・ワークやインタビュー活動が成立しない生徒もいる。全体的に即興での対応や変化が苦手な一面もあるが、やる気があり、できるようになろうと協力して一生懸命に取り組むことができる。

生徒の英語発話量を増やすことが私の課題であり、与えられた型で行うQA活動のみならず、即興的なやりとりも含めて生徒同士がコミュニケーションを図る場面や時間を増やすことに取り組んでいる。先月、異なる情報を持ち寄ってグループ内で情報交流させた際には、状況に応じて“One more time, please.” “How do you spell ○○?” や“OK?”と相手の理解を確かめたり“Sorry.”と詫びたりする即興のやり取りもしていた。授業が終わってから英語を話し続ける生徒もおり、英語を話すことを楽しいと感じているようだった。

表1の結果、③What is ~ doing?の応答が他の項目に比べて通過率が低かった。この問いは昨年度までと出題形式が変わったことが通過率低下の原因と考えられるが、問題は出題形式が変わると対応できないということである。表2は「話すこと」「書くこと」における言語活動に関する生徒の意識調査の結果である。表2中の①②については日常的に指導しているが、否定的な回答をしている生徒がいることは、そのようにうまくできていないと自己評価しているということの表れであると考えられる。

Unit 0では、新しく着任したALTの母国紹介を聞いた後、生徒それぞれが興味をもっている国について調べてスライドを用いて発表した。その際、教科書に与えられた英文の型通りに書く（ICEモデルのIレベル）段階でも「英文の正確さ」という点では良いのだが、果たしてそれが聞き手を意識した文章構成であるのかどうか、また「聞いてみたくなる発表内容」とは何か、という点について考えさせた。スライドと発表原稿のタイミングを合わせることや“Look at the

picture.”と付け足して言えばよかった。」という課題を発見している生徒もいた。これらのことは英語力とは直接関係ないが、相手意識をもってわかりやすく伝える、ということを考えさせるきっかけとなった。私の課題は、スライドづくりに力が注がれることと時間が多くかかったことである。成果は、自分が作ったスライドに内容をALTに伝える、という必然性があったことである。

(3) 指導観

本単元の指導においては、生徒実態と前述の指導実態を踏まえて次の点を工夫する。

- ①外国からのメッセージが届いて、日本文化について知りたい人にメッセージを送るという、習ったことを実際の発信の場に広げる工夫を行う。また外国人が日本を紹介するビデオを予め視聴して、外国の人々が日本の様々なことに興味をもっていることを知らせておく。
- ②シンキングツール「イメージマップ」を使用して日本文化に関するイメージを広げさせる。
- ③日本文化紹介の英文を数種類読ませて比較させ、自分が英文を書くときに反映させる。
- ④支援が必要な生徒への手立てを行う。(英文例のヒントシート、グループワーク)
- ⑤仲間と共にできることと個でできることの精査による活動時間の確保を行う。(紹介する日本文化を決めておく。ただし外国からのビデオメッセージの件は言わないで)

日本文化について書く活動から、自分が日本の何を知っているのか、日本は世界からどう見られているのか等、自分への気付きや多様なものの見方(ICEモデルのEレベル)にもつながりたい。

なお本時の目標は、英文の「わかりやすさ」「個性」「興味深さ」について考えることとした。英語力そのものではないが、表現内容面の指導を重視し、他の生徒の英文や指導者からの助言等から自分で文章構成や内容を選択し、英文の質を高めたいと考え、本目標を設定した。これは国語力に重なる部分が大きく、表現内容面については国語担当教員と連携する。

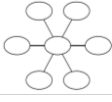
(4) 単元の系統性

小学校 (コミュニケーション・慣れ親しみ・気付き)	中学校 (コミュニケーション・表現・理解・知識理解)
<ul style="list-style-type: none"> ・言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知る。 ・日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を使って、日本文化を紹介する英文を書くことができる。

10 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
①どのような発表内容にすべきかを整理したり振り返ったりしている。	①声の大きさ、強弱、発音などに気を付けて話すことができる。 ②必要な情報を選択肢、適切な文章構成で書くことができる。 ③必要に応じて表現を付け足している。	/	/

11 単元の評価規準

時	学習内容	評価の観点				
		意欲	表現	理解	知識	
1	<p>課題の設定</p> <p>日本文化を紹介するためにどんなことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本文化に関する情報」「それを表現するための英語」が必要であることを確認する。 ・日本文化を紹介するための表現を読んだり書いたりする。 <p>情報の収集</p> <p>日本文化のイメージマップから、自分が紹介したい日本文化のイメージマップをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介する日本文化を決める。 ・紹介する日本文化のイメージマップをつくる。 ・必要な情報をインターネットで調べる。 					※本時は評価しない。
2 (本時)	<p>課題の設定</p> <p>外国からのメッセージに応じて日本文化を紹介するためにはどうすればよいかを考える。</p> <p>整理・分析</p> <p>数種類の英語の文章を読んで、内容の整理・分析をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目ごとに分けて見出しを付ける。 ・どんな内容があれば相手によりわかりやすく伝えることができるのかを考える。 ・おみくじの紹介文と温泉の紹介文を読んで、様々な文構成例があることを知る。 <p>表現</p> <p>文構成を考えて英文をグループ毎に集まって書く。</p>		○			ア①どのような発表内容にすべきかを整理したり振り返ったりしている。
3	<p>表現</p> <p>日本文化を紹介する英文を推敲する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推敲の視点に沿って英文をグループ内で読み合い互いの英文の改善点を交流し、書き直す。(英語の正確さ、文のアウトライン、つながり、大まかな項目や自分の関わる項目、気持ち、これから先のこと、情報の根拠、相手へのメッセージ等) ・発表方法をグループ毎に計画する。 		○			イ②必要な情報を選択し、適切な文章構成で書くことができる。(英作文)
4	<p>表現</p> <p>プレゼンテーションソフトを使ってプレゼンを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布された枠に説明スライドを作成する。 ・発表練習を行う。 					※本時は評価しない。
5	<p>表現 振り返り 実行</p> <p>グループ毎に発表練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に発表を行い、録画した自分の発表を見たりグループからコメントをもらったりして修正する。 		○			<p>※本単元終了後に発表を実施して評価する。本時は評価しない。</p> <p>なお、評価基準は次の通りとする。</p> <p>イ①声の大きさ、強弱、発音などに気を付けて話すことができる。</p> <p>イ③必要に応じて表現を付け足している。</p> <p>ICEモデルによる評価</p>

12 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・どのような発表内容にすべきかを整理したり振り返ったりする。

(2) 本時の評価規準

評価規準	判断基準	
	A	B
どのような発表内容にすべきかを整理したり振り返ったりしている。	複数の英文を比較して、どんな内容があれば相手に日本文化をわかりやすく伝えることができるのかを具体的な項目や心構えを挙げて書いている。 【評価例】 ・日本文化だけでなく、相手へのメッセージや呼びかけが書かれていると伝わりやすいと思いました。(相手との関わりのこと) ・自分が実際に経験したことだと相手にもわかりやすく説明することができますと思います。(対象と自分との関わりのこと) ・日本文化を紹介する時に、呼び方や使い方等を先に説明して、そのあとにもっと詳しいことを書くといいと思います。(順序に関すること)	複数の英文を比較して、どんな内容があれば相手に日本文化をわかりやすく伝えることができるのかを書いているが、判断基準Aの評価例のような記述内容に至っていない。

(3) 準備物

ワークシート, シンキングツール, 電子黒板, タブレット, 英和・和英辞書

(4) 学習展開

学習活動		指導上の留意事項(◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	具体的評価規準 (評価方法)
つかむ	<p>1 課題意識をもつ。</p> <p>「オーストラリアに住んでいる学生からメッセージが来ました。みんなに何を伝えているのでしょうか。」</p> <p>①メッセージの内容を理解する。 ②このメッセージに対して私達はどうすればよいのかアイデアを出し合う。</p> <p>本時の目標：外国からのメッセージに応じて日本文化を紹介するためにはどんな内容を入れればいいのかを考えよう。</p>	<p>◇外国人が日本文化に興味をもって来日する人が年々増えていることに触れる。</p> <p>◇日本文化を紹介するメッセージを書いてオーストラリアに送ることにする。</p>	
考える	<p>2 数種類の英語の文章を読んで、内容の整理・分析を行う。</p> <p>①項目ごとに分けて見出しを付ける。 ②どんな内容があれば相手によりわかりやすく伝えることができるのかを考える。 ③おみくじの紹介文と温泉の紹介文を読んで、様々な文構成例があることを知る。</p>	<p>◇考えを出した後はペアやグループで相談させる。 ◇どの項目があるといいのかを組み合わせてみる。 ◇書き方のパターンが様々あることに気付かせる。</p>	
深める	<p>3 発表内容のアウトラインを考えて、必要な情報を整理して英文を書き始める。</p> <p>①「国紹介」での振り返りを参考にして、発表内容のアウトラインを考える。</p> <p style="text-align: center;"> <input type="text"/> ↓ <input type="text"/> ↓ <input type="text"/> ↓ <input type="text"/> </p> <p>②収集した情報をもとに英文を書き始める。(受け身の文を必ず使うこと)</p>	<p>◇同じようなカテゴリーを紹介する生徒同士でグループを組ませて座らせる。 ◆必要に応じて、「国紹介」で使ったものに類似したワークシートを配布して考えるヒントとさせる。 ◇使える表現集を配布する予定である。ただし、与えすぎると表現のひろがりやを妨げる可能性があるため、状況に応じて配布する。またすでに配布済みの「日本文化紹介文例」も使わせる。 ◇紹介する日本文化の基本情報は予め準備しているが、さらに必要な情報があればタブレットで調べさせる。</p>	

ふりかえる・つなげる	<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>①本時の振り返りを書く。</p>		<p>ア①どのような発表内容にすべきかを整理したり振り返ったりしている。(1枚振り返りシートへの記述内容)</p>
	<p>【生徒のまとめ例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本文化だけでなく、相手へのメッセージや呼びかけが書かれているとわかりやすいと思いました。 ・自分が実際に経験したことだと相手にもわかりやすく説明することができると思います。 ・日本文化を紹介する時に、呼び方や使い方等を先に説明して、そのあとにもっと詳しいことを書くといいと思います。 		
	<p>②次時の学習の予告をする。</p>		

13 板書計画

<p>本時の目標</p>	<p>Iレベル(Idea: 考え, 基礎知識)</p> <p>受け身の文を日本文化紹介に使う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「それは～と呼ばれている」 It is called ~ ・「それは～する時に使われる」 It is used when we / you ~ ・「それは～によって愛されている」 It is loved by ~ ・「それは～で作られている」 It is made of (from) ~ ・「それは～に(対して)知られている」 It is know to ~
<p>Daniel からメッセージが届きました。</p> <p>どのように答えたらいいか考えよう。</p>	

(電子黒板)

- ・ オーストラリアからのメッセージ
- ・ 英文の内容例
- ・ 受け身の文例